

漁況予報 い わ し

第209号

【2018年9～10月漁期】

※1 平年：過去5年平均

※2 被鱗体長：口先から尾ビレの付け根までの長さ

= 概況 =

【マイワシ】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は、7月は755トンと前年(432トン)および平年^{※1}(284トン)を大きく上回り、7月としては2000年以降で突出した値となりました。8月も450トン(速報値)で、前年(152トン)および平年(206トン)を大きく上回りました。

まき網は、相模湾で断続的に餌イワシとして漁獲がありました。

魚体は、両月とも被鱗体長^{※2}(以下同)9-13cm(11cmモード)で、これは2018年生まれの0歳魚で、春生まれのマシラス(マイワシ仔魚)が成長したものです。

予測を大きく上回る来遊量となっており、0歳魚の資源量はかなり多い模様です。

【カタクチイワシ】

主要定置網におけるカタクチイワシ総漁獲量は、7月は6トンで、前年(79トン)および平年(186トン)を大きく下回りました。続く8月も0トン(速報値)で、前年(10トン)および平年(84トン)を大きく下回り、マイワシやウルメイワシに僅かに混じる程度でした。

まき網は、相模湾でヒラゴに混じり、断続的に餌イワシとして漁獲がありました。

魚体は、7月は9-10cmの小型成魚主体、8月は6-8cmの未成魚が主体でした。

【シラス】

6月は西高東低で、全体では平年比0.7倍だった相模湾のシラス漁ですが、夏シラスのスタートとなる7月に入っても全域で漁場形成は安定せず、特に東部では平年比0.2~0.4倍の漁獲水準となりました。7月の全体漁獲量(標本船データより推定)は前年および平年を大きく下回りました(前年比0.7倍、平年比0.6倍)。

8月に入ると更に漁場形成は不安定となり、特に東部ではほぼ皆無となり、8月としては過去最低の漁獲量となってしまいました。(前年比0.2倍、平年比0.2倍)。

ここまで漁獲水準が落ちた要因としては、6、7月の沿岸域でのカタクチイワシの産卵量がいずれも過去10年平均の1割未満と非常に少なかったことが考えられます。

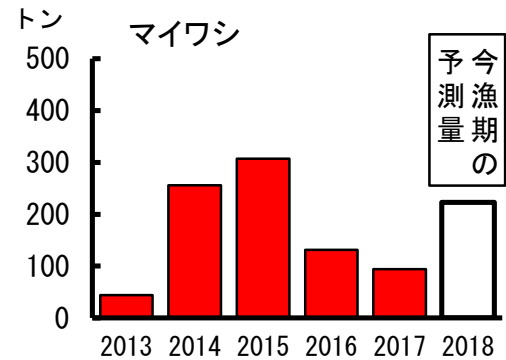
= 予 報 =

過去5年の9・10月漁期の漁獲量と
今漁期の予測量

【マイワシ】

今漁期は、2018年生まれの小羽マイワシ（11～14cm）が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、春季のマシラスおよび7,8月のヒラゴ漁獲状況から、前年を上回る約223トンと予測されます。

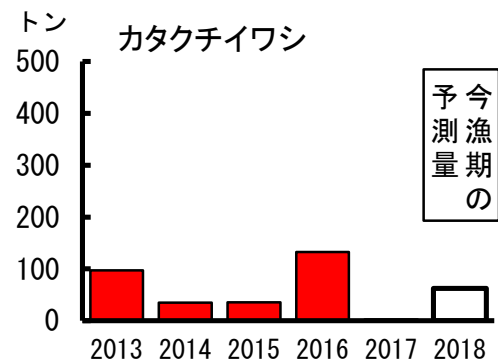


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【カタクチイワシ】

今漁期は、春生まれの未成魚（6～8cm）が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、前年を大きく上回る約62トンと予測されます。

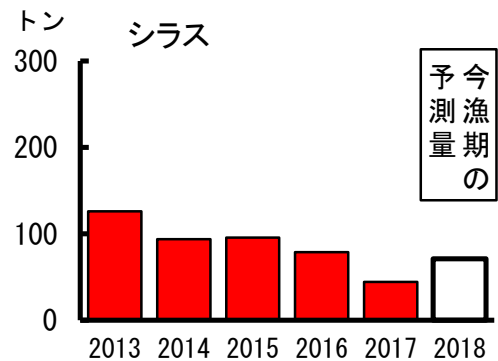


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【シラス】

今漁期は、8月以降に生まれたカタクチシラスが漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、前年を上回る約71トンと予測されますが、大蛇行している黒潮の北上流路がS字状になった場合は、これを下回るでしょう。



神奈川県水産技術センター企画資源部
三浦市三崎町城ヶ島 (046)882-2313